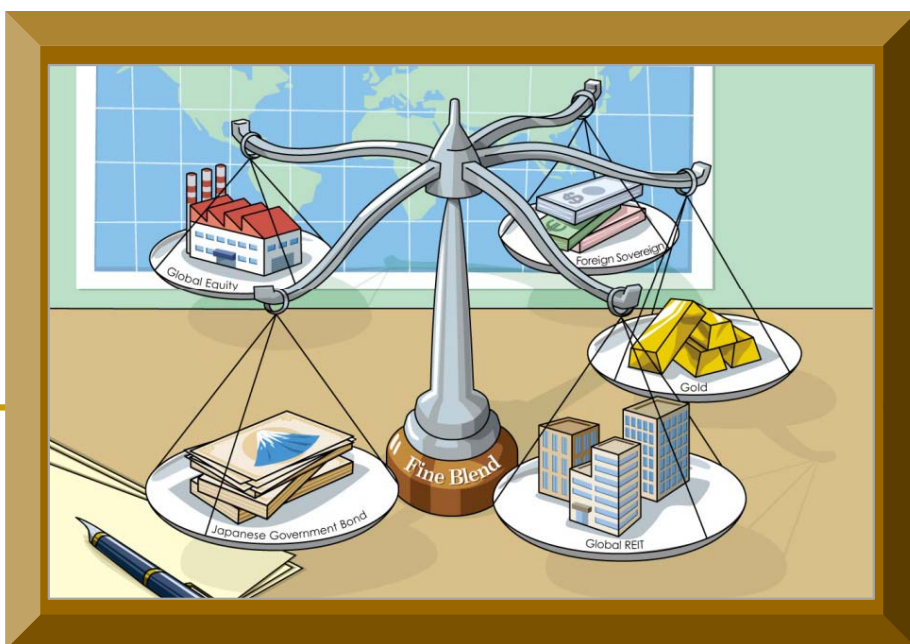




ファイン・ブレンド (毎月分配型)／(資産成長型)

追加型投信／内外／資産複合

設定・運用は

日興アセットマネジメント

日興アセットマネジメント株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第368号
加入協会: 一般社団法人投資信託協会、一般社団法人日本投資顧問業協会、
日本証券業協会

「資産を少しでも増やしたいけれど、リスクが心配・・・」
そうお考えの方もいらっしゃるのではないのでしょうか。

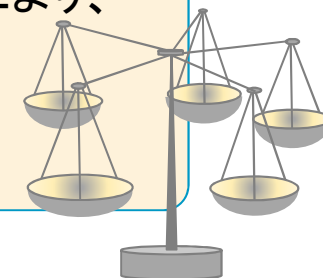
資産を増やす ためには、
収益期待の高い資産への投資が重要です。

しかしながら、収益期待の高い資産ほど、
価格変動(リスク)は大きくなる傾向にあります。

資産を減らさない ためには、
運用期間中の価格の下振れを抑えることが必要です。

それでは、価格変動の大きい資産への投資は、
資産運用には不向きでしょうか？

収益が期待される資産を活用しながらも、**価格変動を抑える工夫を行なう**ことにより、
魅力的な収益の獲得をめざす
「ファイン・ブレンド戦略」による資産運用をご提案いたします。



ファンドの特色

1

主として、収益が期待できる5つの資産を投資対象とし、基準価額の変動を抑えながらも、収益の獲得をめざします。

- 中長期的に収益が期待できる5つの資産(日本国債、海外債券、グローバル株式、グローバルREIT、金)を主要投資対象とします。
- 値動きが異なる傾向にある5つの資産を組み合わせることにより、基準価額の変動を抑えながらも、収益の獲得をめざします。

2

基準価額の変動抑制効果を高めながら魅力的な収益を追求することをめざして、5資産の配分比率を決定します。また、この比率は定期的に見直します。

- 各資産の基準価額への影響度合いが、5資産の間で概ね均等になるような資産配分戦略(ファイン・ブレンド戦略)を用いて、基準価額が、特定の資産から受ける影響を抑えることをめざします。
- また、この戦略による資産配分を定期的に見直すことで、基準価額の変動抑制効果を高めるとともに、魅力的な収益の獲得をめざします。

※ 5資産の合計組入比率は、高位を保つことを原則としますが、市況動向に急激な変化が生じた場合などにおいては、組入比率を引き下げ場合があります。

3

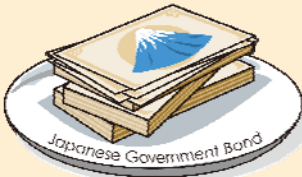
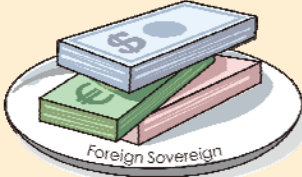
毎月決算を行なう「毎月分配型」と年1回決算を行なう「資産成長型」があります。

- 原則として、毎月分配型は毎月8日、資産成長型は毎年3月8日に決算を行ないます(休業日の場合は翌営業日)。
- ※ 販売会社によっては、どちらか一方のファンドのみの取扱いとなる場合があります。また、ファンド間で、スイッチングを行なうことができる場合があります(スイッチング手数料は販売会社によって異なります)。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。

市況動向および資金動向などにより、上記のような運用が行なえない場合があります。

収益が期待できる5つの資産を投資対象とします

- 当ファンドでは、中長期的に収益が期待できる5つの資産を主要投資対象とします。

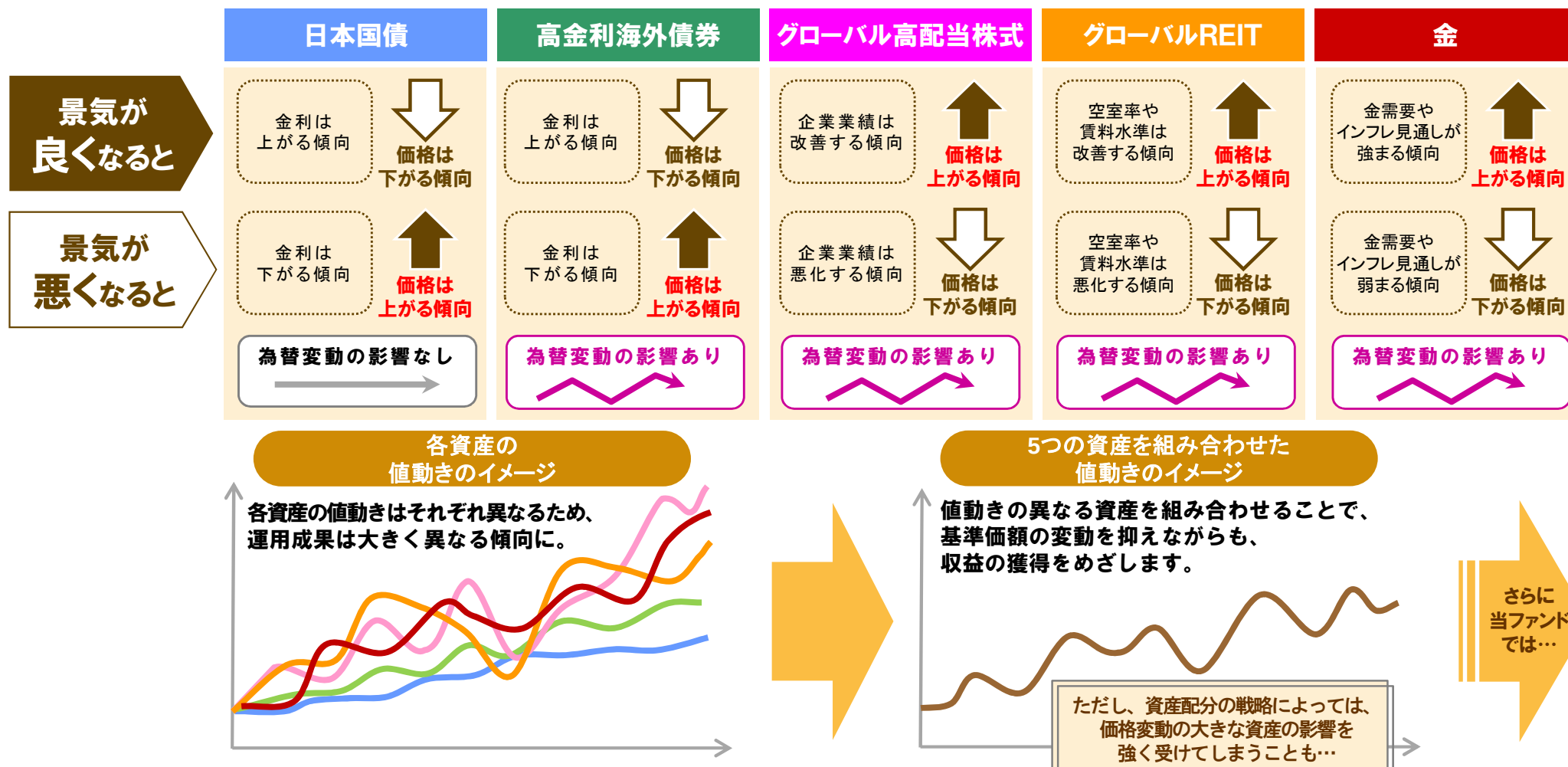
	日本国債 	海外債券 	グローバル株式 	グローバルREIT 	金 
期待される 収益・効果	● 為替変動リスクがなく、相対的に安定的な値動き ● 利子収益	● 相対的に高い利子収益	● 配当収益 ● 株価の値上がり益	● 相対的に高い分配金利回り ● REIT価格の値上がり益	● 他の4資産とは異なる価格特性による高い分散効果 ● 金価格の値上がり益
当ファンドの 投資対象	日本国債 日本国債の中で、超長期国債(残存期間が10年以上の国債)を中心に投資します。	高金利海外債券 G20構成国の中から、金利水準が高いソブリン債に投資します。	グローバル高配当株式 世界各国の配当利回りが高い株式(高配当株式)に投資を行ないます。	グローバルREIT 世界の上場不動産投信(REIT)を中心に投資を行ないます。	金 金価格への連動をめざす金ETF(金上場投信)などを通じ、金への実質的な投資を行ないます。

※各資産のイラストはイメージです。

当資料は、投資者の皆様へ「ファイン・ブレンド(毎月分配型)／(資産成長型)」へのご理解を高めていただくことを目的として、日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。

値動きの異なる5つの資産を組み合わせる効果

- 単一資産で運用すると、運用成果が投資環境によって大きく左右される場合があります。当ファンドでは、値動きが異なる傾向にある5つの資産を組み合わせることにより、基準価額の変動を抑えながらも、収益の獲得をめざします。

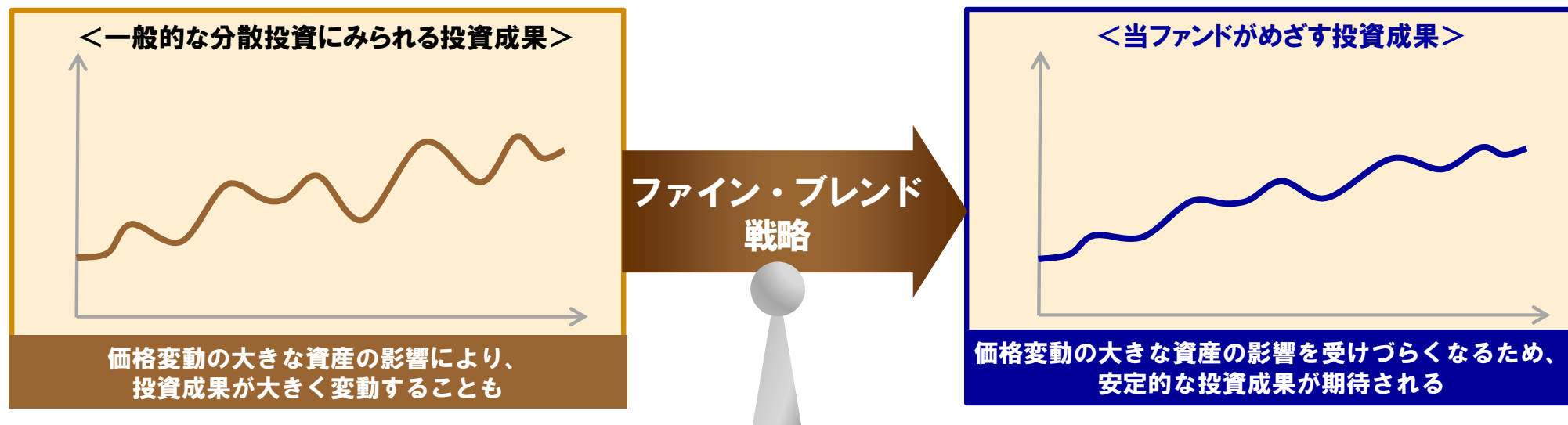


※価格変動などに関する説明は一般論であり、実際はこれと異なる値動きをする場合があります。また、各図はイメージです。

当資料は、投資者の皆様へ「ファイン・ブレンド(毎月分配型)／(資産成長型)」へのご理解を高めていただくことを目的として、日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。

5資産の配分比率は、基準価額の変動を抑える戦略により決定

- 資産を組み合わせる際、資産配分の戦略によっては、価格変動の大きな資産の影響を強く受けてしまうこともあります。
- そこで、当ファンドでは、資産ごとの価格変動の傾向を踏まえ、価格変動の比較的大きい資産は組入れを少なくし、価格変動の比較的小さい資産は組入れを多くする資産配分を行なうことにより、基準価額の大きな変動を抑えることをめざします。



各資産がファンドの基準価額に対して与える影響度を概ね均等とする戦略(ファイン・ブレンド戦略)により、資産を配分

<ファイン・ブレンド戦略とは>

各資産がファンドの基準価額に対して与える影響度合いが、5資産の間で概ね均等になることをめざして資産配分を決定する戦略です。

当戦略における
資産配分の考え方

価格変動が比較的大きい資産

組入比率は少なめ

価格変動が比較的小さい資産

組入比率は多め



※価格変動などに関する説明は一般論であり、実際はこれと異なる値動きをする場合があります。また、各図はイメージです。

当資料は、投資者の皆様へ「ファイン・ブレンド(毎月分配型)／(資産成長型)」へのご理解を高めていただくことを目的として、日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。

定期的な資産配分の見直しにより、魅力的な収益の獲得をめざす

- 当ファンドでは、ファイン・ブレンド戦略を用いて資産配分を定期的に見直し、投資環境の変化に応じた資産配分とすることにより、魅力的な収益の獲得をめざします。



※上記はイメージです。

当資料は、投資者の皆様へ「ファイン・ブレンド(毎月分配型)／(資産成長型)」へのご理解を高めていただくことを目的として、日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。

ファイン・ブレンド戦略による資産配分決定プロセス

- 当ファンドでは、ファイン・ブレンド戦略に基づいて資産配分を決定し、投資を行ないます。
なお、資産配分の決定は、日興グローバルラップ*からの助言をもとに、日興アセットマネジメントが行ないます。
* 日興グローバルラップとは、資産配分の策定や運用アドバイザーの評価・選定など、資産運用サービスを幅広く提供するコンサルティング・カンパニーです。
- 当ファンドでファイン・ブレンド戦略と呼んでいる戦略は、年金運用の世界では、「リスク・パリティ」と呼ばれ、広く知られています。

ファイン・ブレンド戦略による資産配分決定プロセス

<ファイン・ブレンド戦略のポイント>

各資産のリスク水準を推計

- 各資産のリスク水準の推計にあたっては、過去のリスクを基準とするだけでなく、投資家の不安心理を表す指標など、市場リスク(変動率)を先行して捉える傾向のある指標の動きなども加味します。

相関性を考慮

各資産の 基準価額への影響度が均等 となるような 資産配分を決定

- 資産配分比率の算出には、各資産のリスク水準に加え、各資産の対ポートフォリオおよび各資産間の相関性(値動きの類似性・相違性)を考慮します。
- 相対的にリスクが低く(高く)、ポートフォリオもしくは他資産との相関性が低い(高い)資産ほど配分比率が高く(低く)なります。

ポートフォリオ

資産配分比率の見直しは毎月行ないます。
ただし、必要と判断した場合は適宜見直しを行ないます。

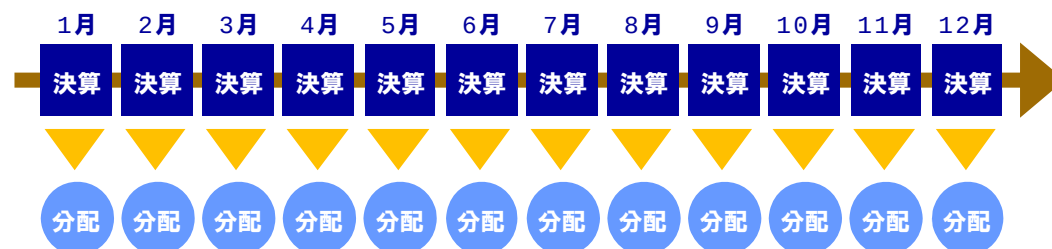
※上記は2016年3月末現在のプロセスであり、将来変更される場合があります。

当資料は、投資者の皆様へ「ファイン・ブレンド(毎月分配型)／(資産成長型)」へのご理解を高めていただくことを目的として、日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。

決算日について

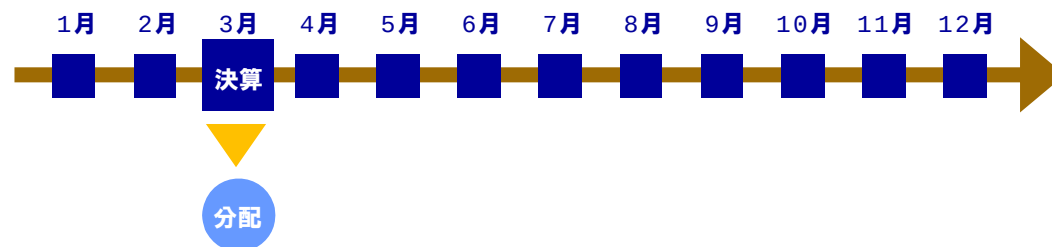
毎月分配型

- 毎月8日(休業日の場合は翌営業日)を決算日とします。



資産成長型

- 毎年3月8日(休業日の場合は翌営業日)を決算日とします。

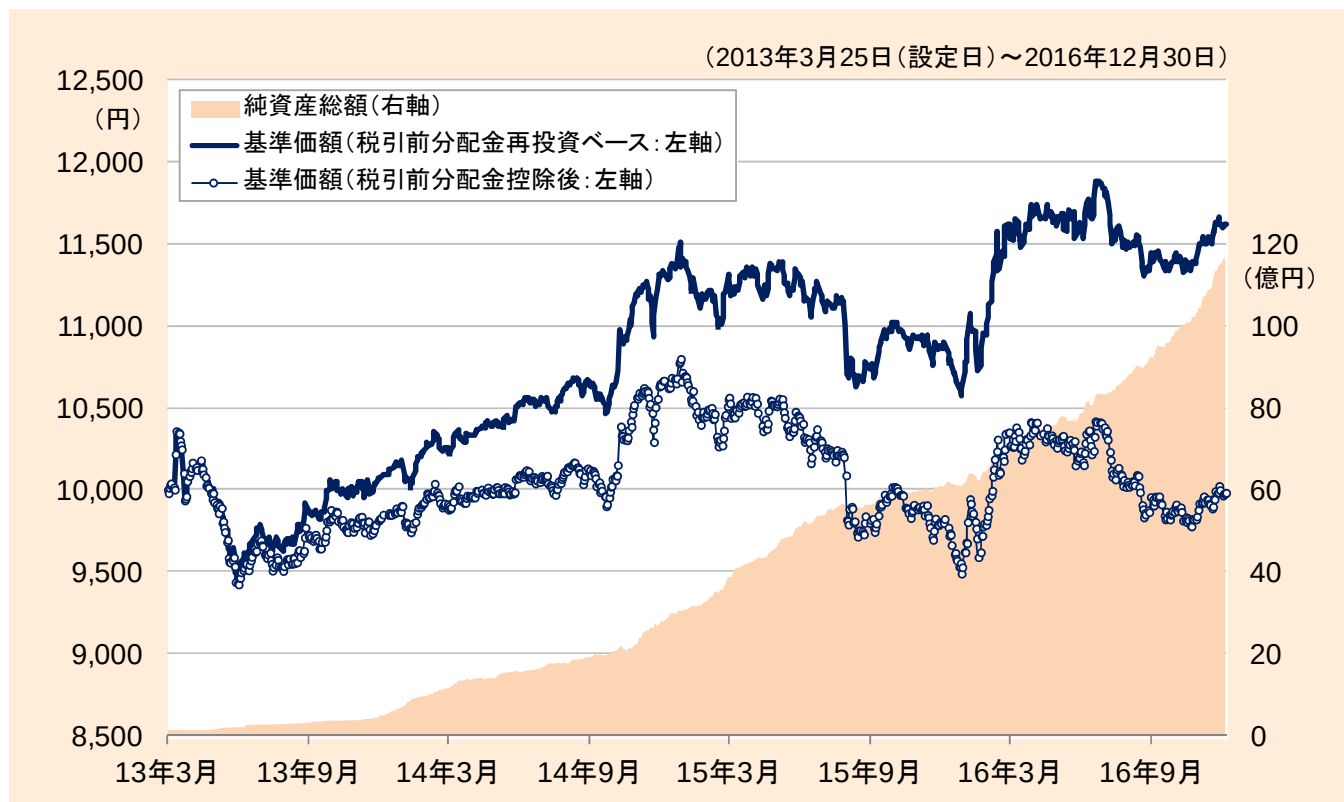


※ 毎決算時に、分配金額は、委託会社が基準価額水準、市況動向などを勘案して決定します。ただし、分配対象額が少額の場合には分配を行わないこともあります。

※ 上図はイメージであり、将来の分配金の支払いおよびその金額について示唆、保証するものではありません。

運用実績（毎月分配型）

基準価額の推移



2016年12月30日現在

■基準価額

(税引前分配金再投資ベース) **11,614円**

(税引前分配金控除後) **9,982円**

■純資産総額

118.09億円

分配金実績(税引前、1万口当たり)

2013年5月～2015年4月 **30円／月**

2015年5月～2016年12月 **40円／月**

直近1年間合計 **480円**

設定来合計 **1,520円**

※ 基準価額(税引前分配金再投資ベース)は、税引前分配金を再投資したものと計算した理論上のものである点にご留意ください。

※ 基準価額は、信託報酬(後述の「手数料等の概要」参照)控除後の1万口当たりの値です。

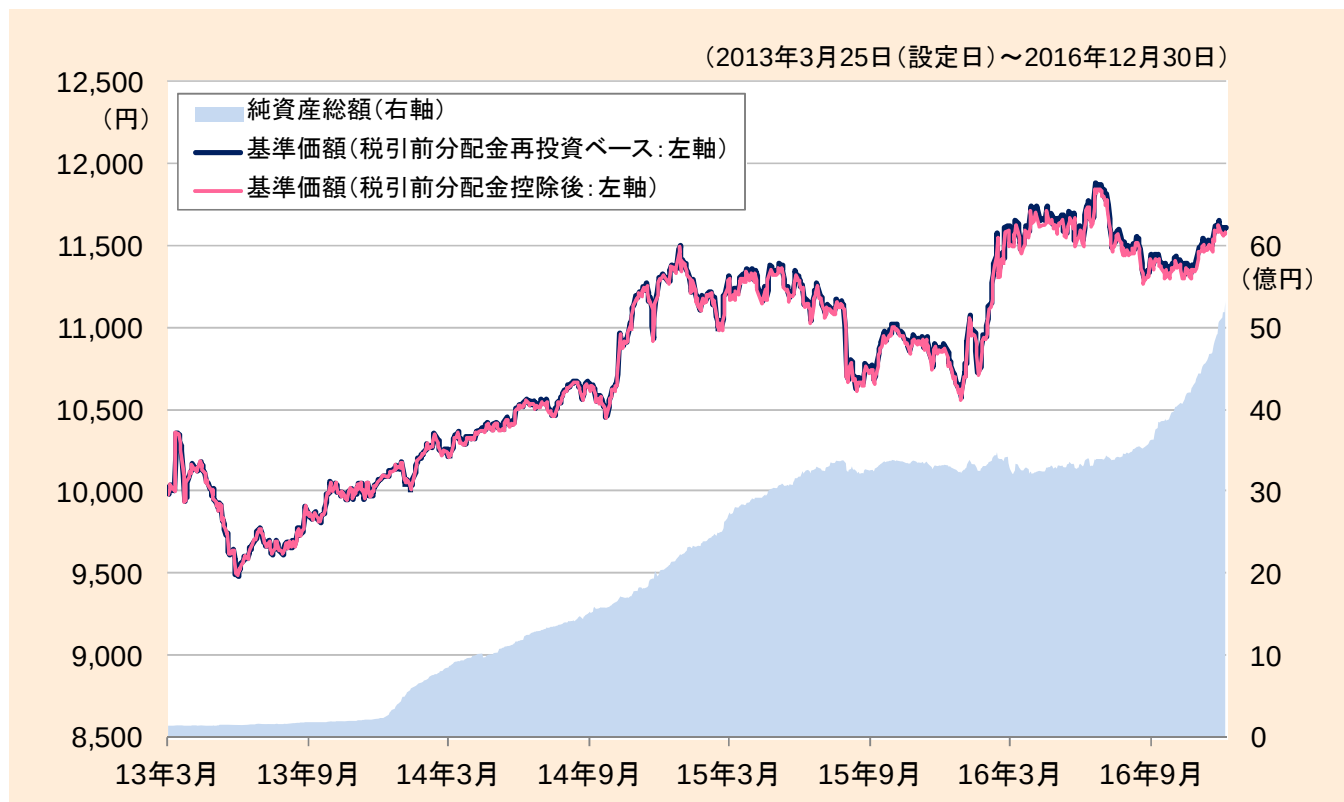
※ 毎決算時に、分配金額は、委託会社が基準価額水準、市況動向などを勘案して決定します。ただし、分配対象額が少額の場合には分配を行わないこともあります。

※ グラフ・データは過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

当資料は、投資者の皆様へ「ファイン・ブレンド(毎月分配型)／(資産成長型)」へのご理解を高めていただくことを目的として、日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。

運用実績（資産成長型）

基準価額の推移



2016年12月30日現在

■基準価額

(税引前分配金再投資ベース) **11,607円**

(税引前分配金控除後) **11,575円**

■純資産総額

53.08億円

分配金実績(税引前、1万口当たり)

2014年3月	10円
2015年3月	10円
2016年3月	10円
設定来合計	30円

※ 基準価額(税引前分配金再投資ベース)は、税引前分配金を再投資したものと計算した理論上のものである点にご留意ください。

※ 基準価額は、信託報酬(後述の「手数料等の概要」参照)控除後の1万口当たりの値です。

※ 毎決算時に、分配金額は、委託会社が基準価額水準、市況動向などを勘案して決定します。ただし、分配対象額が少額の場合には分配を行わないこともあります。

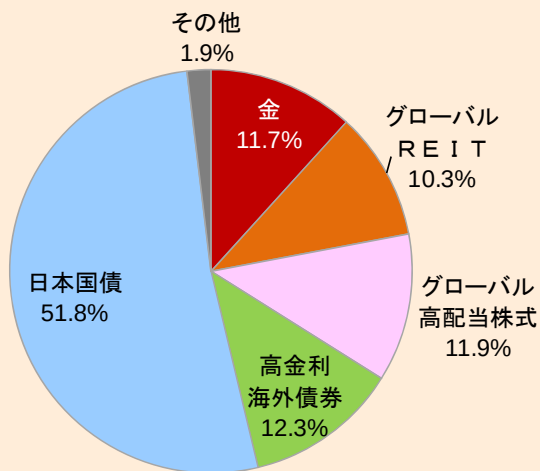
※ グラフ・データは過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

当資料は、投資者の皆様へ「ファイン・ブレンド(毎月分配型)／(資産成長型)」へのご理解を高めていただくことを目的として、日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。

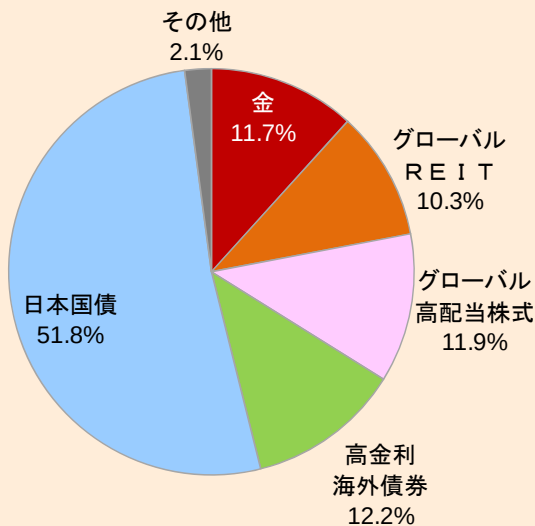
ポートフォリオ概要①（2016年12月末現在）

資産別構成比率

毎月分配型



資産成長型



※ 比率は当ファンドの純資産総額比です。

通貨別構成比率 上位10通貨

	通貨名	毎月分配型	資産成長型
1	日本円	55.4%	55.6%
2	アメリカドル	26.7%	26.6%
3	オーストラリアドル	3.1%	3.1%
4	ロシアルーブル	2.6%	2.6%
5	ユーロ	2.4%	2.3%
6	韓国ウォン	1.9%	1.9%
7	イギリスポンド	1.7%	1.7%
8	メキシコペソ	1.6%	1.6%
9	インドネシアルピア	1.3%	1.2%
10	スイスフラン	1.0%	1.0%

※ 当ファンドの主要投資対象であるマザーファンドや外国投資信託などの組入比率をもとに計算した概算値です。

※「資産別構成比率」は、四捨五入しておりますので、合計が100%とならない場合があります。

※グラフ・データは過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

当資料は、投資者の皆様へ「ファイン・ブレンド（毎月分配型）／（資産成長型）」へのご理解を高めていただくことを目的として、日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。

ポートフォリオ概要②（2016年12月末現在）

各資産の通貨別構成比率

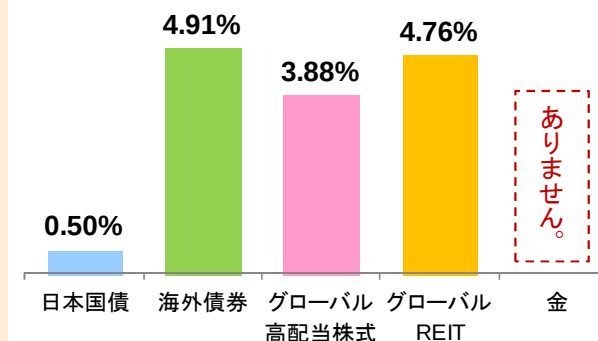
高金利海外債券			グローバル高配当株式			グローバルREIT		
1	ロシアルーブル	21.5%	1	アメリカドル	47.8%	1	アメリカドル	68.1%
2	アメリカドル	19.9%	2	ユーロ	14.4%	2	オーストラリアドル	8.7%
3	韓国ウォン	15.3%	3	イギリスポンド	9.8%	3	日本円	7.4%
4	オーストラリアドル	15.3%	4	スイスフラン	8.6%	4	ユーロ	6.7%
5	メキシコペソ	13.5%	5	カナダドル	6.3%	5	イギリスポンド	5.6%

日本国債			金		
1	日本円	100%	1	アメリカドル	100%

※ 比率は、当ファンドの実質的な投資対象である外国投資信託ならびにマザーファンドにおけるポートフォリオの状況です。なお、各比率は、組入資産時価総額比です。

ご参考

<各資産の利回り水準>



各資産の利回り水準は、海外債券を除き、当ファンドの実質的な投資対象である外国投資信託ならびにマザーファンドにおける利回りを使用しています。

詳細については、以下の通りです。

- ・日本国債：組入銘柄の平均最終利回り
- ・海外債券：ブルームバーグ・バークレイズ・インターナショナル・ハイインカム・ソブリン・インデックス（ヘッジなし・円ベース）の平均最終利回り
- ・グローバル高配当株式：組入銘柄の株式配当利回り
- ・グローバルREIT：組入銘柄の予想分配金利回り

※グラフ・データは過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

当資料は、投資者の皆様へ「ファイン・ブレンド（毎月分配型）／（資産成長型）」へのご理解を高めていただくことを目的として、日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。

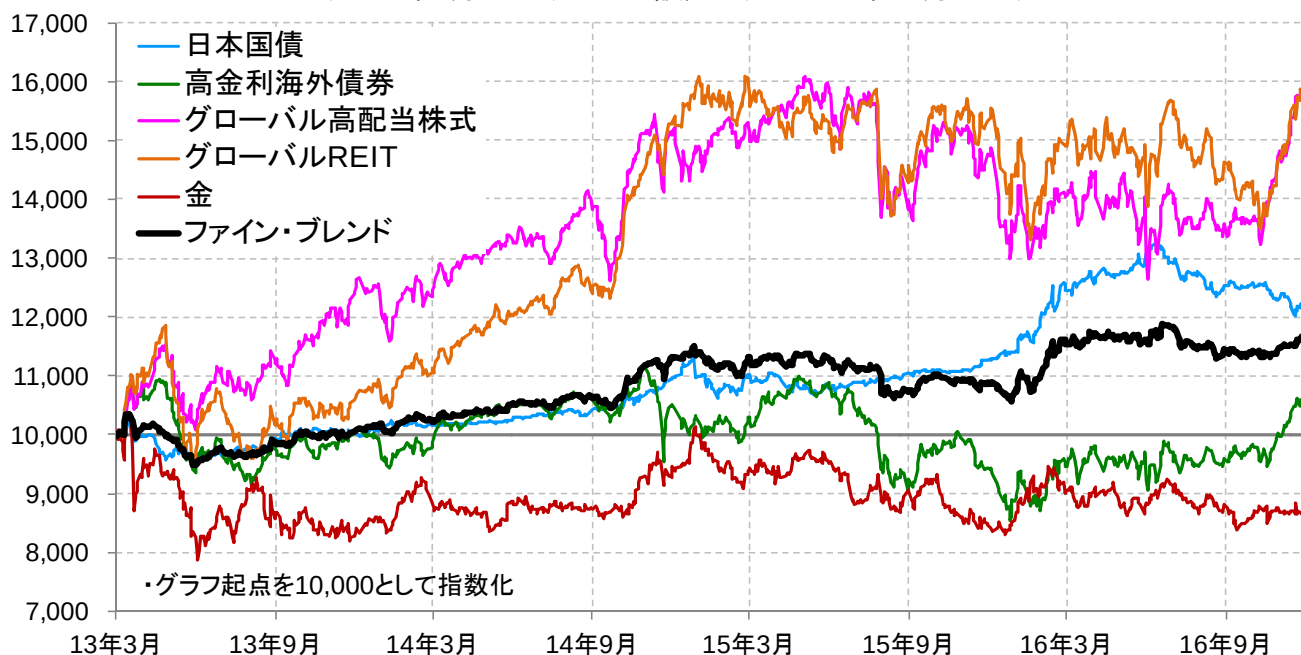
ファイン・ブレンド戦略により、これまで安定成長を実現

- 5つの資産への分散投資効果およびファイン・ブレンド戦略を組み合わせることにより、当ファンドの基準価額は底堅い推移をみせました。
- 当ファンドの値動きは、日本国債に次ぐ小幅な水準となっており、これが、相場下落時の値下がり抑制していち早く回復に転じ、これまでの良好なパフォーマンスにつながったと考えられます。

ファイン・ブレンド戦略による運用を行なった結果、価格変動は緩やかに

【「ファイン・ブレンド」基準価額と各資産の推移】

(2013年3月25日(ファンド設定日)～2016年12月30日)

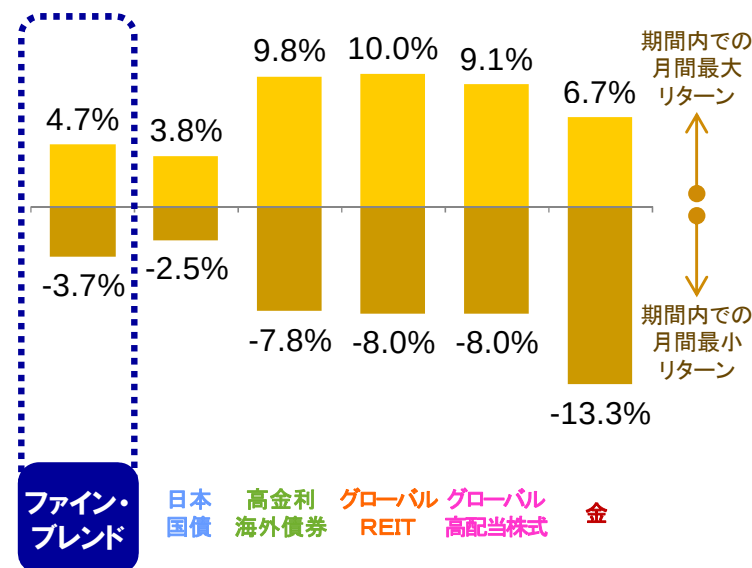


5資産の組み合わせにより、変動幅は縮小

【各資産の月間最大／最小リターン】

(計算期間: 2013年3月*～2016年12月)

*2013年3月は設定時からの騰落率



● 「ファイン・ブレンド」は、資産成長型の税引前分配金再投資ベースの基準価額です。

※ 使用したインデックスについては、後述をご参照ください。

※ 基準価額は信託報酬(後述の「手数料等の概要」参照)控除後の1万口当たりの値です。

※ 税引前分配金再投資ベースとは、分配金(税引前)を再投資したものととして算出した理論上のものである点にご留意ください。

※ グラフ・データは過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

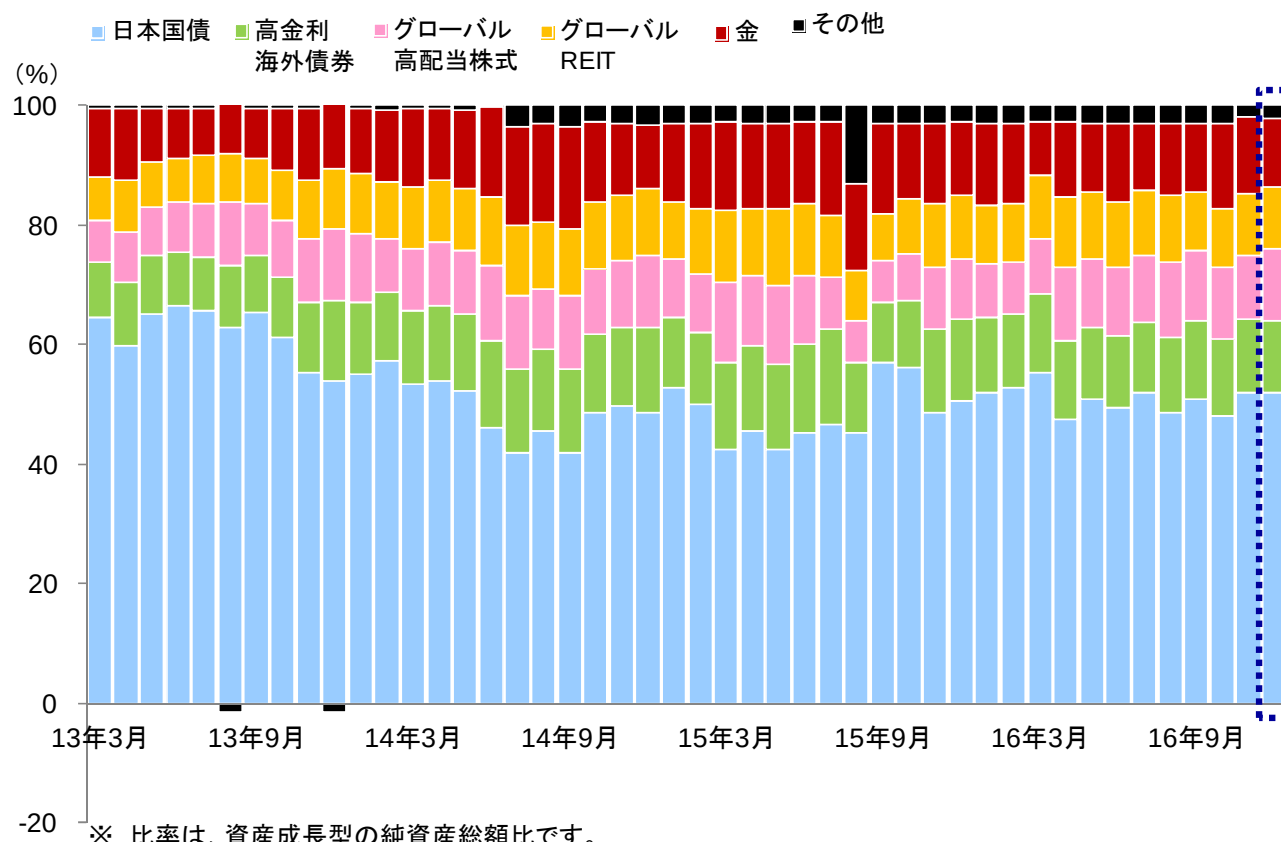
信頼できると判断した情報をもとに日興アセットマネジメントが作成

当資料は、投資者の皆様へ「ファイン・ブレンド(毎月分配型)／(資産成長型)」へのご理解を高めていただくことを目的として、日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。

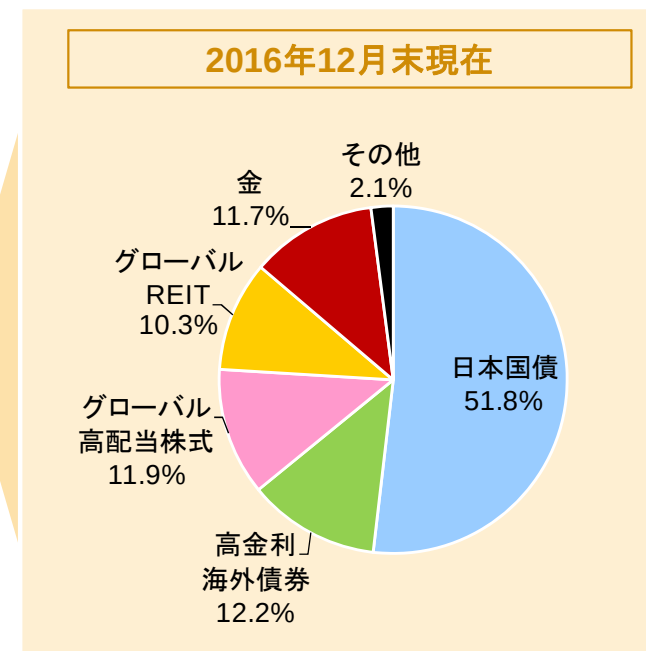
市場変動に応じて資産配分を調整するファイン・ブレンド戦略

- 当ファンドでは、基準価額の大きな変動を抑えるために、資産ごとの価格変動の大きさに着目し、各資産の基準価額に対する影響度合いが概ね均等となるように資産配分を決定しています(ファイン・ブレンド戦略)。
- そのため、資産の価格変動が小幅となる局面では日本国債の比率を低め、価格変動が高まる局面では日本国債の比率を高めに調整しています。

資産構成比率の推移(2013年3月末～2016年12月末)



※グラフ・データは過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。



※上記数値は四捨五入しておりますので、合計が100%とまらない場合があります。

当資料は、投資者の皆様へ「ファイン・ブレンド(毎月分配型)／(資産成長型)」へのご理解を高めていただくことを目的として、日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。

ご参考

投資対象資産の基礎知識①

債 券

定期的な利子収益が期待でき、安定感のある資産

債券は、一般に、国や企業などが資金調達のために発行し、満期に決められた金額で償還されるため、価格変動が穏やかとなる傾向にあります。

債券の投資魅力として、定期的に支払われる利子収益がありますが、日本では低金利が続くなか、海外債券は、相対的に高い金利水準となっており、人気が高まっています。

ただし、海外債券への投資は、一般に外貨建てで行なうことから、為替差益が期待できる一方、為替差損が生じる可能性もあります。

<債券の価格特性>



日本国債の投資魅力

為替リスクがない

比較的安定した値動き

高金利海外債券の投資魅力

相対的に高い利回り水準

成長力に伴う通貨上昇期待

株 式

景気拡大期における資産運用のエンジン役

株式は、企業が資金調達のために発行するもので、債券のような満期はなく、投資家は一般に、市場で、需給によって決まった価格（株価）で売買を行います。

そのため、債券に比べて価格変動が大きくなる傾向にありますが、景気拡大期には、企業収益の拡大による高い収益が期待される資産です。

近年は、企業収益の一部から株主に支払われる「配当」にも注目が集まっており、配当収益と値上がり益の両方をめざす「高配当株式」への投資も広がっています。

<株式の価格特性>



グローバル高配当株式の投資魅力

世界の高配当企業から期待される「配当収益」と「値上がり益」

持続的な高配当が期待される企業は、世界的な優良企業などが中心

※上記は一般論であり、実際とは異なる場合があります。

当資料は、投資者の皆様にご理解を高めることを目的として、日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。

ご参考

投資対象資産の基礎知識②

REIT（不動産投信）

安定収入と値上がり期待、Wエンジンを持つ資産

REIT(Real Estate Investment Trust: 不動産投信)とは、投資家から集めた資金などで不動産などを購入し、そこから生じる賃料収入や売却益などの収益を、「分配金」として投資家に還元する仕組みをもつ金融商品です。

一般に、安定した賃料収入が期待できる優良物件を多数保有し、そこから得た収益の大半を、投資家に分配することを目的に運営されることから、相対的に高く安定した分配金が期待されます。また、不動産という資産特性上、インフレに強いとされています。

REITは、実物不動産の保有に比べて広く分散投資が可能となるほか、金融市場で売買されることから、換金性が高いことも特長です。



グローバルREITの投資魅力

比較的高く安定した
分配金利回り

インフレに強み

分散投資が可能

金

他資産とは異なる特性を持つ、資産運用のスパイス役

金は、インフレ局面では、株式やREITと同様、価格上昇が期待されることから、インフレに強い資産とされています。また、紙幣などとは異なり、金そのものに価値があることから、世界情勢に先行き不透明感が強まるような局面では、買われやすくなる傾向があります。このように、金は、一般的な資産とは異なる価格特性をもっています。

なお、金は過去に通貨として使用されたこともあり、代替通貨としての性格を持つことから、米ドルが買われる局面では金が売られ、米ドルが売られる局面では金を買われる傾向も見られます。こうしたことから、主要国の中央銀行では、外貨準備の一環として金を保有しています。

- 当ファンドでは、流動性の観点から、投資利便性の高い金ETF（金上場投信）を通じて、金投資を行ないます。

* ETF(Exchange Traded Fund: 上場投信)とは、指数や市場に連動する運用をめざす投資信託の形態をとる金融商品です。金ETFは、ETFを通じて現物（金地金）を購入するなどの形態をとることから、金の現物取引に比べて流動性や利便性が高く、金投資の運用手法の一つとして、広く用いられています。



金の投資魅力

インフレに強み

リスク回避局面で
強み株式や債券とは
異なる値動き

※上記は一般論であり、実際とは異なる場合があります。

当資料は、投資者の皆様にご理解を高めることを目的として、日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。

使用したインデックスについて

● 本資料で使用したインデックスは、下記の通りです。なお、いずれも当ファンドのベンチマークではありません。

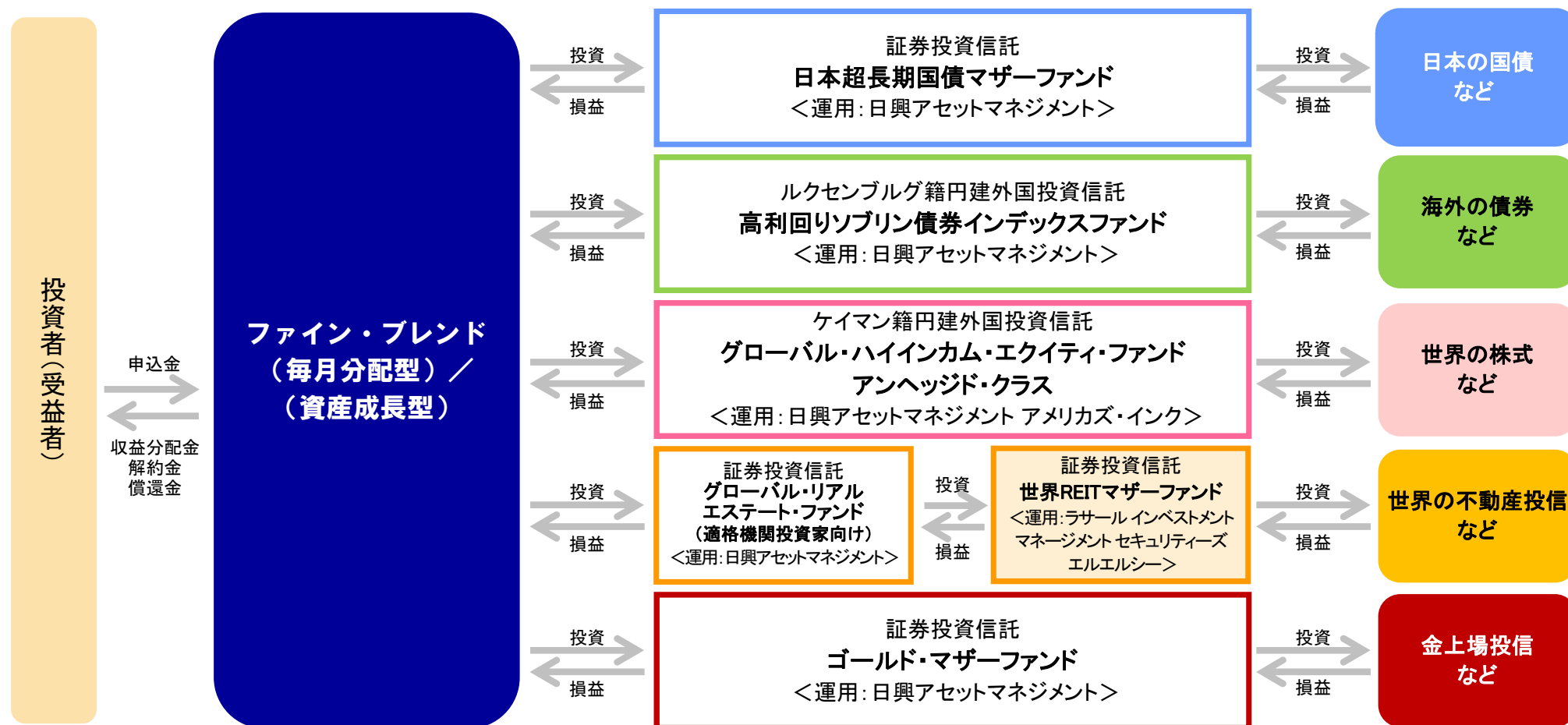
- 日本国債・・・シティ世界国債インデックス(日本、残存10年以上)
- 高金利海外債券・・・ブルームバーグ・バークレイズ・インターナショナル・ハイインカム・ソブリン・インデックス(ヘッジなし・円ベース)
- グローバル高配当株式・・・MSCIワールド高配当株式インデックス*
- グローバルREIT・・・S&P先進国REITインデックス
- 金・・・ブルームバーグ金サブ指数トータルリターン*

*公表されている原指数を円換算して使用。

上記指数に関する知的財産権その他一切の権利は各指数の公表企業などに帰属します。また、指数公表企業などは指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。

ファンドの仕組み

- 当ファンドは、投資信託証券に投資するファンド・オブ・ファンズです。



※上記の他、約款で別に定める投資信託証券に投資する場合があります。

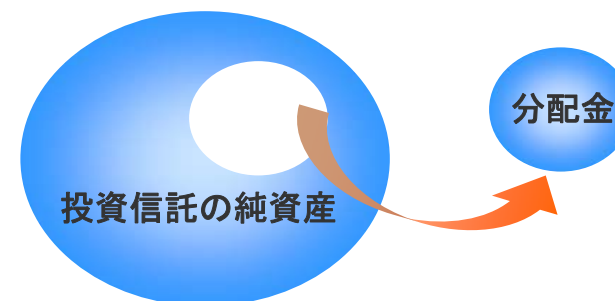
※ 販売会社によっては、どちらか一方のファンドのみの取扱いとなる場合があります。また、ファンド間で、スイッチングを行なうことができる場合があります（スイッチング手数料は販売会社によって異なります）。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。

当資料は、投資者の皆様へ「ファイン・ブレンド(毎月分配型)／(資産成長型)」へのご理解を高めていただくことを目的として、日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。

収益分配金に関する留意事項①

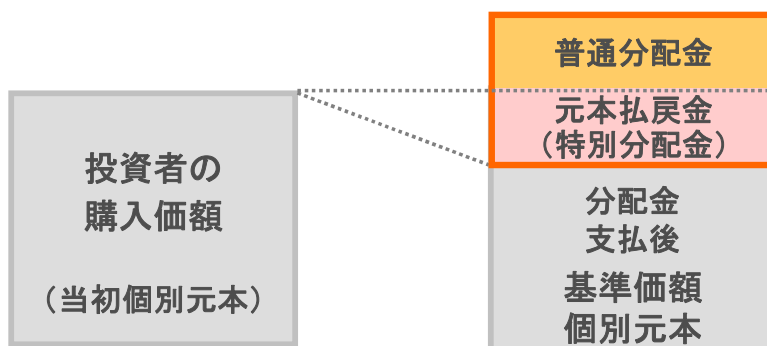
- 分配金は、預貯金の利息とは異なり、投資信託の純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。

投資信託で分配金が支払われるイメージ

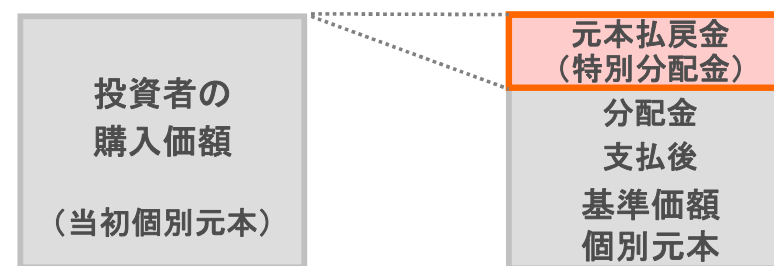


- 投資者のファンドの購入価額によっては、分配金の一部または全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がりが小さかった場合も同様です。

分配金の一部が元本の一部払戻しに相当する場合



分配金の全部が元本の一部払戻しに相当する場合



※元本払戻金(特別分配金)は実質的に元本の一部払戻しとみなされ、その金額だけ個別元本が減少します。

また、元本払戻金(特別分配金)部分は**非課税扱い**となります。

普通分配金：個別元本(投資者のファンドの購入価額)を上回る部分からの分配金です。

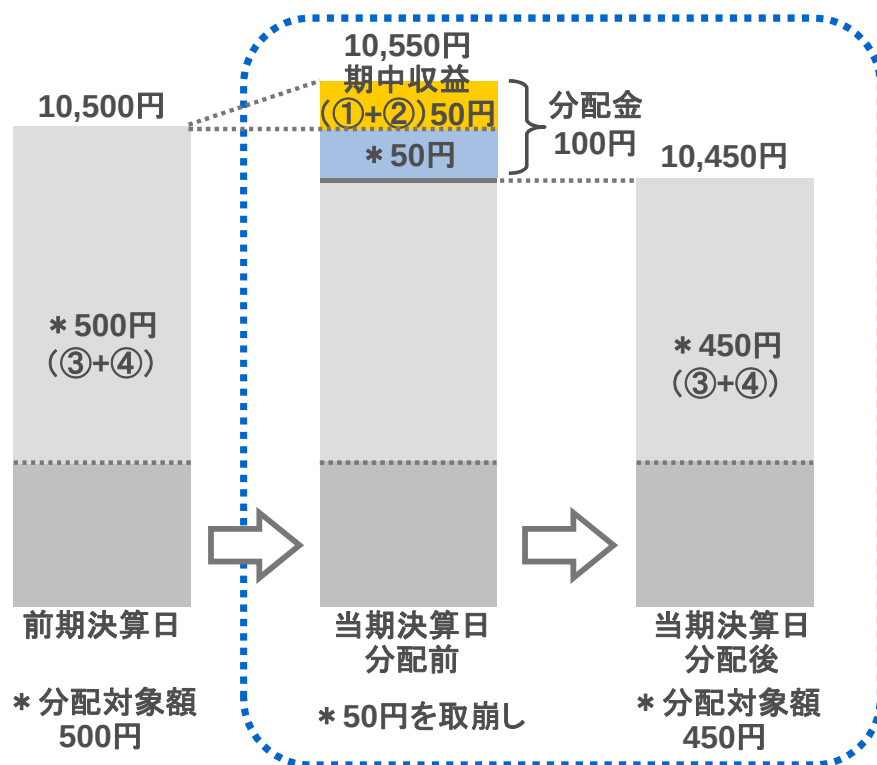
元本払戻金：個別元本を下回る部分からの分配金です。分配後の投資者の個別元本は、元本払戻金(特別分配金)の額だけ減少します。(特別分配金)

収益分配金に関する留意事項②

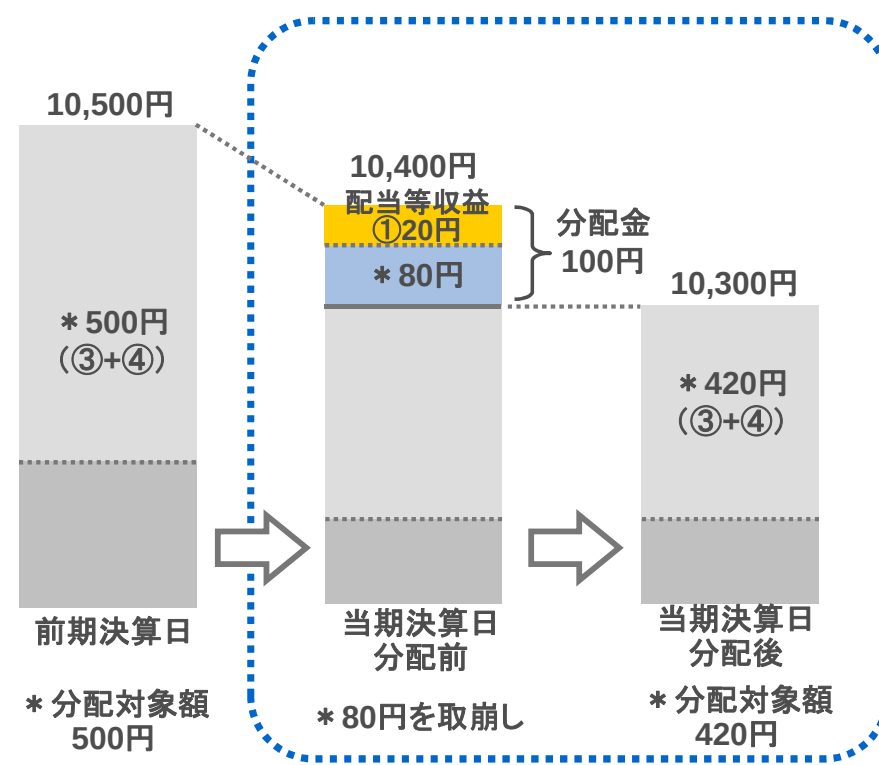
- 分配金は、計算期間中に発生した収益(経費控除後の配当等収益および評価益を含む売買益)を超えて支払われる場合があります。その場合、当期決算日の基準価額は前期決算日と比べて下落することになります。また、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。

計算期間中に発生した収益を超えて支払われる場合

前期決算から基準価額が上昇した場合



前期決算から基準価額が下落した場合



(注)分配対象額は、①経費控除後の配当等収益および②経費控除後の評価益を含む売買益ならびに③分配準備積立金および④収益調整金です。

分配金は、分配方針に基づき、分配対象額から支払われます。

※上記はイメージであり、将来の分配金の支払いおよび金額ならびに基準価額について示唆、保証するものではありません。

お申込みに際しての留意事項①

●リスク情報

投資者の皆様は投資元金は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元金を割り込むことがあります。ファンドの運用による損益はすべて投資者(受益者)の皆様には帰属します。なお、当ファンドは預貯金とは異なります。

当ファンドは、主に債券、株式、不動産投信および金上場投信を実質的な投資対象としますので、債券、株式、不動産投信および金上場投信の価格の下落や、債券、株式、不動産投信および金上場投信の発行体の財務状況や業績の悪化、不動産および金地金の市況の悪化などの影響により、基準価額が下落し、損失を被ることがあります。また、外貨建資産に投資する場合には、為替の変動により損失を被ることがあります。

投資対象とする投資信託証券の主なリスクは以下の通りです。

【価格変動リスク】

- ・公社債は、金利変動により価格が変動するリスクがあります。一般に金利が上昇した場合には価格は下落し、ファンドの基準価額が値下がりする要因となります。ただし、その価格変動幅は、残存期間やクーポンレートなどの発行条件などにより債券ごとに異なります。
- ・新興国の債券は、先進国の債券に比べて価格変動が大きくなる傾向があり、基準価額にも大きな影響を与える場合があります。
- ・株式の価格は、会社の成長性や収益性の企業情報および当該情報の変化に影響を受けて変動します。また、国内および海外の経済・政治情勢などの影響を受けて変動します。ファンドにおいては、株式の価格変動または流動性の予想外の変動があった場合、重大な損失が生じるリスクがあります。
- ・不動産投信は、不動産や不動産証券化商品に投資して得られる収入や売却益などを収益源としており、不動産を取り巻く環境や規制、賃料水準、稼働率、不動産市況や長短の金利動向、マクロ経済の変化など様々な要因により価格が変動します。また、不動産の老朽化や立地条件の変化、火災、自然災害などに伴う不動産の滅失・毀損などにより、その価格が影響を受ける可能性もあります。不動産投信の財務状況、業績や市況環境が悪化する場合、不動産投信の分配金や価格は下がり、ファンドに損失が生じるリスクがあります。
- ・金上場投信は、連動目標とする金地金価格の変動の影響を受けます。金市場は、金の需給関係、為替・金利の変動、政府の規制・介入、投機家の参入など様々な要因により変動します。金地金の価格が下落する場合、金上場投信の価格は下がり、ファンドに損失が生じるリスクがあります。

(次頁に続きます)

お申込みに際しての留意事項②

(前頁より続きます)

【流動性リスク】

- ・市場規模や取引量が少ない状況においては、有価証券の取得、売却時の売買価格は取引量の大きさに影響を受け、市場実勢から期待できる価格どおりに取引できないリスク、評価価格どおりに売却できないリスク、あるいは、価格の高低に関わらず取引量が限られてしまうリスクがあり、その結果、不測の損失を被るリスクがあります。
- ・新興国の債券は、先進国の債券に比べて市場規模や取引量が少ないため、流動性リスクが高まる場合があります。

【信用リスク】

- ・公社債および短期金融資産の発行体にデフォルト(債務不履行)が生じた場合またはそれが予想される場合には、公社債および短期金融資産の価格が下落(価格がゼロになることもあります。)し、ファンドの基準価額が値下がりする要因となります。また、実際にデフォルトが生じた場合、投資した資金が回収できないリスクが高い確率で発生します。
- ・新興国の債券は、先進国の債券に比べて利回りが高い反面、価格変動が大きく、デフォルトが生じるリスクが高まる場合があります。
- ・投資した企業の経営などに直接・間接を問わず重大な危機が生じた場合には、ファンドにも重大な損失が生じるリスクがあります。デフォルト(債務不履行)や企業倒産の懸念から、発行体の株式などの価格は大きく下落(価格がゼロになることもあります。)し、ファンドの基準価額が値下がりする要因となります。
- ・不動産投信が支払不能や債務超過の状態になった場合、またはそうなることが予想される場合、ファンドにも重大な損失が生じるリスクがあります。

【為替変動リスク】

- ・外貨建資産については、一般に外国為替相場が当該資産の通貨に対して円高になった場合には、ファンドの基準価額が値下がりする要因となります。
- ・一般に新興国の通貨は、先進国の通貨に比べて為替変動が大きくなる場合があります。

(次頁に続きます)

お申込みに際しての留意事項③

(前頁より続きます)

【カントリー・リスク】

- ・投資対象国における非常事態など(金融危機、財政上の理由による国自体のデフォルト、重大な政策変更や資産凍結を含む規制の導入、自然災害、クーデターや重大な政治体制の変更、戦争など)を含む市況動向や資金動向などによっては、ファンドにおいて重大な損失が生じるリスクがあり、投資方針に従った運用ができない場合があります。
- ・一般に新興国は、情報の開示などが先進国に比べて充分でない、あるいは正確な情報の入手が遅延する場合があります。

※ ファンドが投資対象とする投資信託証券は、これらの影響を受けて価格が変動しますので、ファンド自身にもこれらのリスクがあります。

※ 基準価額の変動要因は、上記に限定されるものではありません。

●その他の留意事項

- ◆ 当資料は、投資者の皆様へ「ファイン・ブレンド(毎月分配型)／(資産成長型)」へのご理解を高めいただくことを目的として、日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。
- ◆ 当ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定(いわゆるクーリング・オフ)の適用はありません。
- ◆ 投資信託は、預金や保険契約とは異なり、預金保険機構および保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また、銀行など登録金融機関で購入された場合、投資者保護基金の支払いの対象とはなりません。
- ◆ 投資信託の運用による損益は、すべて受益者の皆様に帰属します。当ファンドをお申込みの際には、投資信託説明書(交付目論見書)などを販売会社よりお渡ししますので、内容を必ずご確認くださいの上、お客様ご自身でご判断ください。

お申込メモ

商品分類	追加型投信／内外／資産複合
ご購入単位	購入単位につきましては、販売会社または委託会社の照会先にお問い合わせください。
ご購入価額	購入申込受付日の翌営業日の基準価額
ご購入不可日	購入申込日がニューヨーク証券取引所の休業日、英国証券取引所の休業日、ニューヨークの銀行休業日またはロンドンの銀行休業日のいずれかに当たる場合は、購入のお申込みの受付は行ないません。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。
信託期間	2028年3月8日まで(2013年3月25日設定)
決算日	【毎月分配型】毎月8日(休業日の場合は翌営業日) 【資産成長型】毎年3月8日(休業日の場合は翌営業日) ※販売会社によっては、どちらか一方のファンドのみの取扱いとなる場合があります。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。
収益分配	毎決算時に、分配金額は、委託会社が基準価額水準、市況動向等を勘案して決定します。ただし、分配対象額が少額の場合には分配を行わないこともあります。 ※将来の分配金の支払いおよびその金額について保証するものではありません。
ご換金価額	換金請求受付日の翌営業日の基準価額
ご換金不可日	換金請求日がニューヨーク証券取引所の休業日、英国証券取引所の休業日、ニューヨークの銀行休業日またはロンドンの銀行休業日のいずれかに当たる場合は、換金請求の受付は行ないません。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。
ご換金代金のお支払い	原則として、換金請求受付日から起算して6営業日目からお支払いします。
課税関係	原則として、分配時の普通分配金ならびに換金時および償還時の差益は課税の対象となります。 ※課税上は、株式投資信託として取り扱われます。 ※公募株式投資信託は税法上、少額投資非課税制度の適用対象です。 ※配当控除の適用はありません。 ※益金不算入制度は適用されません。

手数料等の概要

お客様には、以下の費用をご負担いただきます。

<お申込時、ご換金時にご負担いただく費用>

- 購入時手数料
購入時手数料率は、3.24%(税抜3%)を上限として販売会社が定める率とします。
※分配金再投資コースの場合、収益分配金の再投資により取得する口数については、購入時手数料はかかりません。
※販売会社によっては、ファンド間で、スイッチングを行なうことができる場合があります(スイッチング手数料は販売会社によって異なります)。
詳しくは、販売会社にお問い合わせください。

<<ご参考>>

(金額指定で購入する場合)

購入金額に購入時手数料を加えた合計額が指定金額(お支払いいただく金額)となるよう購入口数を計算します。
例えば、100万円の金額指定で購入する場合、指定金額の100万円の中から購入時手数料(税込)をいただきますので、100万円全額が当ファンドの購入金額とはなりません。
※上記の計算方法と異なる場合があります。詳しくは販売会社にお問い合わせください。

(口数指定で購入する場合)

例えば、基準価額10,000円のときに、購入時手数料率3.24%(税込)で、100万口ご購入いただく場合は、次のように計算します。
 $\text{購入金額} = (10,000\text{円} \div 1\text{万口}) \times 100\text{万口} = 100\text{万円}$ 、 $\text{購入時手数料} = \text{購入金額}(100\text{万円}) \times 3.24\%(\text{税込}) = 32,400\text{円}$
となり、購入金額に購入時手数料を加えた合計額103万2,400円をお支払いいただくことになります。

- 換金手数料
ありません。
- 信託財産留保額
ありません。

<信託財産で間接的にご負担いただく(ファンドから支払われる)費用>

- 信託報酬
純資産総額に対して年率1.4479%(税抜1.3525%)以内を乗じて得た額が実質的な信託報酬となります。
信託報酬率の内訳は、当ファンドの信託報酬率が年率1.08%(税抜1.0%)、投資対象とする投資信託証券の組入りに係る信託報酬率が年率0.3679%(税抜0.3525%)以内となります。受益者が実質的に負担する信託報酬率(年率)は、投資対象とする投資信託証券の組入比率や当該投資信託証券の変更などにより変動します。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。
- その他費用
目論見書などの作成・交付および計理等の業務にかかる費用(業務委託する場合の委託費用を含みます。)、監査費用などについては、ファンドの日々の純資産総額に対して年率0.1%を乗じた額の信託期間を通じた合計を上限とする額が信託財産から支払われます。
組入有価証券の売買委託手数料、借入金の利息および立替金の利息などについては、その都度、信託財産から支払われます。
※組入有価証券の売買委託手数料などは、運用状況などにより変動するものであり、事前に料率、上限額などを示すことはできません。

※当ファンドの手数料などの合計額については、投資者の皆様がファンドを保有される期間などに応じて異なりますので、表示することができません。
※詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

委託会社、その他関係法人

委託会社	日興アセットマネジメント株式会社	
投資顧問会社	日興グローバルラップ株式会社	
受託会社	三井住友信託銀行株式会社	
販売会社	投資信託説明書(交付目論見書)のご請求・お申込みは 今村証券株式会社(金融商品取引業者 北陸財務局長(金商)第3号 加入協会:日本証券業協会)	他



日興アセットマネジメントは日本ウイラルチエアーラグビー連盟を応援しています。

